

# カラカス市民オーケストラ×ピースボート

## 94回クルーズ日本公演と船旅の記録



# 1. 目次

1. 目次
2. はじめに
3. カラカス市民オーケストラについて
4. 乗船メンバー
5. 日本滞在の記録
6. 船内生活の記録
7. 各寄港地の記録
8. メンバーからのメッセージ



## はじめに

ピースボートが毎年訪れる南米ベネズエラ。石油確定埋蔵量世界一で名が知られていますが、近年、政治・経済・社会不安というテーマでニュースに取り上げられることが多くなりました。政府反対派による街頭暴動や、道路封鎖など、インパクトの強いイメージを多くの国際メディアが伝えています。2013年にチャベス大統領が腰部の癌で死去して以来、原油価格の急速な下落で外貨が大幅減収し、人々が物資不足・超インフレに苦しんでいるのは否めません。しかし、ベネズエラに暮らすのは、メディアで見るとような暴力的なひとばかりなのではないでしょうか。

2006年、ベネズエラの青少年オーケストラ・コーラスシステム「エル・システム」※に出会ったピースボートは、生き生きと音楽を楽しむ子どもたちに魅せられ、音楽の社会的利用に関心を持ち、交流や支援を続けてきました。船上における彼らとの音楽・文化交流はその取り組みのひとつで、音楽を使って貧困や格差、暴力や不平等からの絶望を乗り越えてきた例を教えてもらいました。言葉や習慣の壁を越えた相互理解も生まれました。10年のあいだ、バルガス州地域青少年オーケストラ、ミランダ州のフランシスコ・デ・ミランダ・オーケストラの若きメンバー100名以上が、エル・システムの意義と豊かさを共有してくれました。

2017年春～夏、「カラカス市民オーケストラ」との交流が、初めて実現しました。20名の音楽家は、多くの方々のサポートによって、14日間の日本滞在と72日間の船旅を終えることが出来ました。彼らは、ソリストとしてステージで演奏し、数々のリサイタルを行い、語学、文化、社会問題など、広い範囲の講座にも参加しました。交流の場面では、ラテン気質を生かし、壁を作らず、言語サポートなしでも分かり合えることを感じさせてくれました。船旅なかば、自国の不安定な状況を外から眺めて心を乱し、涙を流す場面もありました。そんなときは、新しい友人との出会いや交流が、彼らを強く勇気づけていました。

今回の企画は、多くのひとびとのサポートによって達成されました。日本では、セイコウ・イシカワ駐日ベネズエラ大使および大使館のみなさん、メンバーを温かく受け入れてくれたホストファミリーのみなさん、暮らしづくりネットワーク北芝のみなさん、コアプラスの武田緑さん、クラウド・ファンディングにご参加いただいたみなさん、けやきの森の季楽堂の内田貴子さん、船内では、予めからエル・システムに情熱を注ぎ、公私ともにメンバーの支えとなってくれた藤井麻由さん、オーケストラ・パートナーのみなさん、チャリティー・レッスンやオークションに参加されたみなさんを始め、一緒に旅を続けてくれたみなさんに大変お世話になりました。

エル・システムの創始者、ホセ・アントニオ・アブレウ博士は言います。「社会が不安定なとき、子どもや若者から最初に奪われるのは芸術。しかし、心の安定や勇気を保つためには、芸術は欠かせない。大人はそれを奪ってはいけない」子どもや若者たちを暴力の脅威から遠ざけ、絶望から立ち上がらせ、心の豊かさをはぐくむ音楽というものの奇跡を信じ、ピースボートはこれからも活動を続けていきます。

※「エル・システム」(ベネズエラ青少年オーケストラ・コーラスシステム)

1975年、ホセ・アントニオ・アブレウ博士によって設立された音楽教育システム。11人の子どもたちを駐車場に集めて始まったこの取り組みは、現在70万人以上の青少年を巻き込む大きなプロジェクトとなっています。

## カラカス市民オーケストラについて

1979年、ベネズエラの首都・カラカス市に生まれたカラカス市民オーケストラ。市民が親しむオーケストラを目指し、コンサート・ホールに加え、教育機関や社会福祉施設、広場や病院などで演奏活動を行っています。クラシック音楽のみならずベネズエラ伝統音楽やラテン音楽など、幅広いジャンルに挑戦。団員の90%が、ベネズエラの音楽教育システム「エル・システマ」出身で、子どもたちに音楽を教える経験を持っています。94回クルーズには、20代を中心とした若き音楽家20名が乗船しました。



### ムラキ・サダオ代表からのごあいさつ

2017年、ピースポート、駐日ベネズエラ大使館、カラカス市およびベネズエラ外務省アジア・太平洋・中東局のサポートを受け、カラカス市民オーケストラの20人の若い音楽家たちによる日本訪問、およびピースポートの船旅への参加が企画されました。

しかし私たちは、ピースポートがこれまでに年月をかけてやってきた世界との地道な外交活動の中の一団体でしかなく、ピースポートの取り組みには、「メビウスの帯」のように、数えきれない人々が、繰り返し関わってきたことを知りました。

オーケストラのメンバーは、充実した共同生活のなかで、相互理解、チームの協力体制、連帯すること、友情をはぐむことの本当の意味を見出し、そして、今日の前にある数々の不安を払拭できたと感じています。

日本に到着してから、高円宮妃殿下の前で演奏し、数日後、大阪・箕面市で暮らすひとびとと音楽を共有し、船旅中はヒバクシャ証言会同行中に歴史継承の場面を目の当たりにし、ギリシャではスカラマガス難民キャンプを訪問することができました。ピースポート代表吉岡達也氏のチームが、長年取り組んできた大きな努力の現場に同席することができたのです。社会や文化の壁を超えることができたということは、私たちにとって大きな喜び、誇りとなったことは、言うまでもありません。私たちカラカス市民オーケストラを信じ、この機会を与えてくださったことに、改めて心から感謝いたします。

## 乗船メンバー



Daniel Enrique  
Gil Diaz  
ダニエル  
Director

Abril Celeste  
Nuñez Gadaleta  
アブリル  
Violin

Claudia Cristina  
Font Milano  
クラウディア  
Violin

Marlen Jesús  
Larez León  
マルレン  
Violin

Emeli Gibelli  
Martínez Torres  
エメリ  
Violin

Victor Alejandro  
Villalobos Orta  
ビクトル  
Violin



Jesús Enrique  
Muñoz Chacon  
ヘス・エンリケ  
Violin

Anahis Mariela  
Fernandez Noguera  
アナイス  
Violin

Johann David  
Díaz Ramirez  
ヨハン  
Violin

Jhonas Alejandro  
Sibila Vegas  
ホナス  
Cello

Miguel Angel  
Lopez Yubero  
ミゲル  
Cello

Francisco Graciano  
Lovera Longa  
フランシスコ  
Contrabajo

María Gabriela  
Nunez Loiza  
マリア  
Flauta



Carolina Prado  
Sanchez  
カロリナ  
Oboe

Jesús Gabriel  
Antón Rincón  
ヘス・ガブリエル  
Clarinete

Oliver  
Lopez Yubero  
オリベル  
Fagote

Gabriel Alejandro  
Marrero D Armas  
ガブリエル  
Corno

Hendrix Jesús  
Macía Quiñones  
エンドリクス  
Trompeta

Yorman Daniel  
Rodríguez Castillo  
ジョルマン  
Trombon

Luis Abel  
Abreu Duarte  
ルイス  
Percusion



## 担当スタッフ



Ayumi ANDO  
安藤歩



Masumi MATSUMURA  
松村真澄



Stacy HUGHES  
ステイシー・ヒューズ

## 日本滞在の記録

3月末に来日、東京、大阪、名古屋、横浜にて、20回のコンサートを行いました。

【東京】4月1日、港区のホテル・オークラ東京で開かれた慈善晩さん会「チェリー・ブロッサム・チャリティーボール」にて、駐日ベネズエラ大使館コーディネートによる演奏会に参加。クラシック曲、ベネズエラ音楽を演奏するとともに、福島・相馬市の子どもたちとの共演も行いました。

ヤマハ銀座店訪問

ヤマハ株式会社マーケティング総括部の北村かおりさん、谷真琴さんのご協力のもと、ヤマハ楽器本店への訪問が実現しました。

【大阪】4月4日、箕輪市北芝のコミュニティー・センター「らいとびあ21」にて、弦楽アンサンブルのコンサートを行いました。「オーケストラを指揮してみよう！」を企画し、子どもから大人までが指揮者体験を楽しみました。シェア・ハウス「はらいふ」と「南の家」で共同生活し、ピースポートセンターおおさかでの温かな歓迎会にも参加しました。大阪城を含む観光では、通訳案内士でピースポートボランティア通訳でもある山本直美さんにガイドいただきました。

【ピースポート船内見学会ツアー】4月5～9日の4日間、ピースポートに乗船し、名古屋、横浜で行われた見学会にて、オーケストラ、アンサンブルによるコンサートを行いました。最終日には、駐日大使館関係者約50名およびお世話になるホストファミリーを招いたコンサート・レセプションにて演奏しました。

【エル・システム けやきの森のリサイタル】4月11日、練馬区の築150年古民家・けやきの森の季楽堂にて、木管アンサンブルによるリサイタルを行いました。



日本到着の様子



らいとびあ21でのコンサート



ピースポートセンターおおさかにて



見学会での演奏



こどもたちの楽器体験



けやきの森 季楽堂でのリサイタル

## ホームステイ

4月10～12日の4日間、カラカス市民オーケストラのメンバーは、都内および東京近郊の家庭でのホームステイを体験しました。受け入れしてくださった10家族の中には、ピースポートやエル・システムを知らなかった方々もいらっしゃいます。到着前からスペイン語を学んで準備をしてくださり、食事や観光、移動や文化交流など全面的なサポートをいただきました。

ご協力いただいたファミリー：吉原功ファミリー、藤井麻由ファミリー、鈴木昭ファミリー、矢島多見子ファミリー、高木憲一ファミリー、山縣典子ファミリー、鳥谷部愛ファミリー、門脇哲太郎ファミリー、内山由香里ファミリー、長谷川務ファミリー 計10ファミリー





左・上 ファミリーと東京散歩

下 出航の様子（駐日ベネズエラ大使も駆けつけてくださいました）



## 船内生活の記録

地球一周94回クルーズは、4月12日に横浜港を出航し、ベネズエラ・ラグアイラ港に6月22日に寄港しました。72日間の船上生活のあいだ、メンバーは多くのコンサートを行うほか、スペイン語教室でのサポートを担い、日本語教室や船内ゲストスピーカーによる講演やワークショップに参加しました。

### 【コンサート】

船内では、さまざまな規模ではありますが、約100回の演奏機会に恵まれました。

オーケストラ編成のコンサートは、船内ブロードウェイ・ラウンジ（500名）、アンサンブル編成のコンサートはバー・カサブランカ（80名）にて行われました。その他レセプションや夏祭り、ファッションショーなど、船内の一般企画などでも演奏しました。

#### ソリスト・シリーズ

オーケストラの演奏をバックに、メンバーひとりひとりがソロ曲（もしくはデュエット曲）を準備し、披露しました。バッハ、ビバルディ、サン・サーンスやエルガーなど名曲の数々。常にブロードウェイ・ラウンジが満席でした。

#### ベネズエラ音楽、ラテン音楽特集

アルデマロ・ロメロやビジョ・フロメタ、カルロス・ドゥアルテなど、ベネズエラを代表する作曲家による名曲や、アストル・ピアソラのタンゴ、日本でもお馴染みのベサメ・ムチョやコーヒールンバなどのラテン音楽も多く演奏され、聴衆を惹きつけていました。

#### 「オーケストラを指揮してみよう」

オーケストラ名曲メニュー表が準備され、希望者を募り、ステージにて指揮者の体験をしていただきました。喜びの歌やカルメンなど、オーケストラという楽器を演奏する体験に、みなさん大満足でした。

#### アンサンブル・リサイタル

カルテット（トリオ/クインテット）IN カサブランカと題し、さまざまな組み合わせのグループが、雰囲気の良いバー・カサブランカで30分ほどのリサイタルを行いました。映画音楽、アメリカン・ポップ、コリアン・ポップ、ベネズエラ伝統音楽など、幅広いジャンルの音楽を楽しみました。

#### その他、船内イベントでの演奏

出航式でのファンファーレ、ウェルカム・パーティーでの余興、夏祭りでのブラジル・サンバ、GET（語学プログラム）での歌の伴奏、交流フェスティバルなど、様々な場面を美しい音楽で盛り上げてくれました。



オーケストラ ソリストシリーズ



金管アンサンブルのリサイタル

### 【船内ヌークレオ（音楽練習所）チャリティー・レッスン】

インド洋洋上（コロンボ〜ピレウス間）および大西洋洋上（ベルゲン〜ラグアイラ間）の2回に渡り、10回コースのチャリティー・レッスンが行われました。メンバーそれぞれに、約3〜4人の参加者がつき、言葉の壁を乗り越え、楽器の使い方、楽譜の見方、音の出し方を学びました。参加者は、10回のレッスンで2曲を習得し、修了後に行われた「みんなのコンサート」にてオーケストラ合奏の体験をしました。1時間のレッスンだけでは物足らず、朝に開放されていた「音楽ひろば」（プロードウェイ・ラウンジで設けられた個別練習の空間）でも自主練習、グループ練習を行いました。

このほか、同じく94回クルーズで行ったモンテッソーリ教育企画「こどもの家」では、2回に渡って音楽教室を実施しました。子どもたちは、エル・システムの音楽入門レッスンを体験、お絵かきやダンス、ゲームを通じて音を楽しみました。なお、チャリティー・レッスンで使われた楽器の多くは、楽器販売のヤマハさんから、低額にてご提供いただいたものです。

### 【コーラス練習/オーケストラとの共演】

ベネズエラの第二、第三の国家と呼ばれる「アルマ・ジャンラ（平原の魂）」、「ベネズエラ」2曲をスペイン語で練習し、日本の震災復興のために作られた「花は咲く」、ヒロシマ原爆投下をテーマに書かれたと言われる「大地讃頌」を練習しました。「みんなのコンサート」では、オーケストラの演奏とコーラスの合唱の美しい共演を聞くことができました。



チャリティー・レッスンの様子



チャリティー・レッスン 合わせ



コーラスとの共演

## 【語学教室、文化体験】

オーケストラ・メンバーは、毎日行われた日本語教室、約3日に一度行われた英語教室に積極的に参加し、船内では多くの人々と交流しました。また、日本の伝統衣装や習字、太鼓などの文化企画も楽しみました。

## 【学習、ヒバクシャとの交流】

94回クルーズのもう一つのプロジェクト「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」に参加した被爆者3名による証言を聞き、ヒロシマ・ナガサキ原爆投下の歴史、影響について学びました。また、スリランカの人権活動家によるスリランカ内戦の全容や、紛争解決のワークショップなど、さまざまな講座に参加しました。チーム・ビルディングや啓発ワークショップでは、自分の心を開き、相手と向き合って会話する機会を持ち、不安・不満なこと、その解決への糸口などについて話し合いました。



ベネズエラ文化紹介



日本語教室



和太鼓体験



ヒロシマ・ナガサキ 被爆者の声を聴く



イラン平和博物館の証言を聴く



紛争予防ワークショップ



今後についての議論



スペイン語教室サポート



夏祭りでサンバを披露



モンテッソーリ音楽レッスン



パーカッション・ワークショップ

### 【オーケストラ・パートナーの協力】

船内では、音楽や楽器経験のある人や、ベネズエラやスペイン語に興味がある人などが集まり、オーケストラの企画や船内生活をサポートするオーケストラ・パートナー（オケパ）のみなさんの活躍が目立ちました。コンサートの飾り付けや MC、日本語教室の内容や練習パートナーなど、オケパのみなさんのサポートがなければ成功し得なかったものも数多くあります。音楽や日本文化、イベントや日常生活を通して友情を築き、一緒に過ごした日々は、忘れられない思い出にもなったことでしょう。



オーケストラ・パートナーのみなさん



## 寄港地の記録

横浜港からラグアイラ港まで、18の港に寄港したうち、5寄港地にてヒバクシャ証言会に同行演奏し、5寄港地にて現地ベネズエラ大使館と活動・企画を行いました。



ギリシャ・スカラマガス難民キャンプでのコンサート

### ピレウス（ギリシャ）

在ギリシャ・ベネズエラ大使のファリッド・フェルナンデス閣下とともに、スカラマガス難民キャンプを訪問しました。スカラマガス難民キャンプは、3,200名（75%シリア、25%アフガニスタン、その他イラク、パレスチナ）の難民を受け入れている大規模なキャンプ。子どもたちが半数を占め、音楽へのアクセスがほぼ皆無だったために、昨年エル・システム・ギリシャを立ち上げました。今回の訪問では、新しくできた野外ステージでの音楽会を企画し、同じく支援に訪れていたフランス人ホルン奏者、ウラジミール・デュボアさんとの共演が実現しました。子どもたちが初めて習った童謡を、予め楽譜を受け取っていたオーケストラが演奏し、かわいらしく美しいハーモニーが生まれました。

### カリアリ（イタリア）

マッシモ劇場で行われたヒバクシャ証言会にて、木管クインテットがオープニングで、イタリアを代表する作曲家、ヴェルディの「ナブッコ」と、「ベネズエラ」を演奏。

### バレンシア（スペイン）

バレンシア大学の講堂にて、ヒバクシャ証言会后、弦楽カルテットが演奏。「G 船上のアリア」を捧げました。

### ポルト（ポルトガル）

ジャディラ・メンドーサ在ポルトガル・ベネズエラ領事が来船。船内を見学し、今回のプロジェクトについて、また今後のプロジェクトについて意見交換しました。

## コペンハーゲン（デンマーク）

水先案内人・音響設計士の豊田泰久さんの案内で、ご自身が手がけたコンサート・ホール、「デンマークラジオ放送コンサート・ホール」を見学。実際に音を出し、ステージからの美しい響きを体験しました。

夕方には、アウラ・マウアンピ・ロドリゲス在デンマーク・ベネズエラ大使と大使館員 4 名が来船。小さな演奏会と旅の報告会を行いました。

## ヘルシンキ（フィンランド）

スライ・プリエト・ロドリゲス在フィンランド・ベネズエラ大使と共催で、フィンランド現地の方々に、エル・システマを紹介する船内コンサート&レセプションを行いました。各国大使、外交官、文化担当官、市民活動家など 50 名が集まり、意見交換をし、音楽を楽しみました。

## ストックホルム（スウェーデン）

午前中、ピースボート船上で、スウェーデン政府、国連との共催で行われた「海洋会議」のオープニング演奏を行いました。金管クインテットが、ベネズエラ伝統音楽メドレーを披露しました。

午後には、ミレナ・サンタナ在スウェーデン・ベネズエラ大使と共催で、音楽会・レセプションが行われました。各国大使、外交官、教育者ら 70 名が、ベネズエラ音楽を楽しみました。

## ベルゲン（ノルウェイ）

ベルゲン市内にある文学会館にて行われた、ヒバクシャ証言会に出席、演奏しました。

## レイキャビック（アイスランド）

1986年にレーガン大統領とゴルバチョフ書記長が冷戦締結のために会談した「ホフディ・ハウス」で行われたヒバクシャ証言会に同行し、弦楽 4 重奏が演奏しました。



カリアリ証言会にて



バレンシア証言会にて



ベルゲン証言会にて



在フィンランド・ベネズエラ大使館との共催イベント

## ベネズエラ寄港の記録

6月22日、ピースボートはベネズエラに寄港しました。教育、農業、植林、音楽交流など、8つの交流プログラムが行われました。プログラム「エル・システムの魅力にせまる」に参加された80名のみなさんは、オーケストラ・メンバーのルーツでもある、エル・システムの本部を訪れ、シモン・ボリーバル・ユース・オーケストラのリハーサルを見学し、ベネズエラ音楽のリサイタルを鑑賞しました。その後、ラグアイラ市のヌークレオ（マイケティア地域音楽練習所）を訪れ、音楽交流を楽しみました。日本で集められた支援物資（楽器・楽器アクセサリーなど）は、マイケティア音楽練習所の子どもたちに直接手渡され、エル・システム本部で登録され、有効に使われています。



エル・システム本部入口



リハーサル見学



カラカス市が一望できるテラスで



マイケティア練習所の歓迎



練習した「ベネズエラ」合唱



支援物資を贈呈

夕方、ベネズエラ外務省、カラカス市、カラカス市民オーケストラ、ピースボート共催で、平和と友好のセレモニー・コンサートが行われました。カラカス市内にある市立劇場が、ピースボート参加者やカラカス市民で満席となり、セレモニーでは、カラカス市文化遺産課長のフレディー・ニャニスさん、外務省のカティウスカ・ロドリゲス・アジア部長に挨拶をいただいたあと、ヒバクシャ、田中稔子さんの証言を聴きました。コンサートでは、メンバーおよびカラカスで活動していた市民オーケストラ・メンバーの演奏を楽しみました。ピースボートのコーラスと、「アルマ・ジャンラ」「ベネズエラ」を共演し、ソーラン節の伴奏をし、最後にクルーズ出航テーマ曲を演奏し、クルーズにおける最後の演奏を行いました。



日本滞在14日間、船旅72日間、86日間海外で活動したカラカス市民オーケストラ・メンバーは、家族や友達の待つベネズエラのカラカス市に戻りました。現在も、ベネズエラの市民のために、音楽活動を続けています。

## メンバーからのメッセージ

### ダニエル・ヒル（指揮者）

日本に着いたその日から、そこに暮らす人々の受け入れに感動し、船旅が始まってからも絶えずその感動は続いていました。私たちが得た文化体験は、価値を測り得ない貴重な体験で、私たちの体とところに深く刻み込まれました。私たちを受け入れてくれた日本の家族（鈴木さん）、ベネズエラ大使館、旅で得ることができた多くの友人たちに心から感謝します。

### アブリル・ヌエス（バイオリン）

ベネズエラ人としてこの時代に生きることは、大きな痛みでもあり、同時に誇りでもあります。私たちが旅をしているその期間、ベネズエラの社会状況は激化しました。私たちは、旅をしながらそれを外から眺め、平和の中で生きること、それが難しい中で生きていくことについて葛藤しました。船の中には、それを考え、話し合う時間がありました。この素晴らしい時間、機会に心から感謝しています。

### クラウディア（バイオリン）

船の中ではさまざまなイベントが行われましたが、印象に残っているのが日本語教室でした。毎日、タクミ（18歳）とウラ（タクミのおばあちゃん/84歳）が、親身になって教えてくれました。船の中の世代を超えたつながりが、素晴らしいと思いました。この旅で、言葉の通じない人々を分かり合うのはそれほど難しいことではない、と学びました。

### マルレン・ラレス（バイオリン）

どれだけ「ありがとう」と言っても足りないくらいです。

この3か月間は、「旅」というよりも、「冒険」であり「人生における貴重な経験」でした。自分とは違うこと、自分には関心が高かったことも、知ることで大きな尊敬と感銘が生まれる、と知りました。



モンテッソーリ・プログラムで音楽を教えるマルレン



日本語頑張るクラウディアたち

### エメリ・マルティネス（バイオリン）

私にとって印象的だったのは、大阪で共同生活をしたこと、そして東京でホームステイをしたことです。アジア、日本の文化、そしてホスピタリティに感動しました。

この旅を、私はいつまでも忘れることはありません。

### ヘスス・ムニョス（バイオリン）

3か月をかけて、人の多様性と文化の違いを学び、様々な企画を通して自分の精神やスタンスを見直す経験をしました。そして、言語を学ぶ楽しさ、難しさ、得た時の豊かさを知りました。私を支えてくれた仲間たち、スタッフのみなさん、家族の皆さん、ありがとう。

### **アナイス・フェルナンデス（ビオラ）**

船の中では、被爆者の方に出会い、証言を聞くことができました。モンテッソーリ教育についても知り、自分をもっと勉強しなければならない、と気づきました。私の音楽人生の今後に、大きな影響を及ぼしたことは、言うまでもありません。

### **ヨハン・ディアス（ビオラ）**

この旅を通して、私たちは100以上のコンサートを行いました。被爆者の方々の証言や、在日コリアンの体験も聞きました。本当にたくさんの人々と出会い、学びの深い船旅の最後の別れでは、今までなかったほど涙を流しました。ベネズエラの家族を離れていたけれど、ここに新しい家族を作れたことを、心から嬉しく思います。

### **ミゲル・ロペス（チェロ）**

違う文化を理解しその中で生きていくことは、簡単なことではなかったけれど、意義のあるチャレンジであり、冒険でした。もう一度経験することはもはや難しいけれど、この経験を最大限に利用して、今後の自分に役立てていきたいと思います。培われた友人たちは、これからの私の人生の大きな存在となっていくことでしょう。

### **ホナス・シビラ（チェロ）**

日本の家族に対して、これほど愛を持てるなどと考えてもみませんでした。別れるときは、本当に悲しかったです。船では、たくさんの演奏の機会をいただき、ズンバ（ブラジルのダンス）やスポーツイベントに参加し、充実した日々を過ごしました。ベネズエラの曲を演奏しているときは、やはり自分はベネズエラが大好きだ、と気づくことができました。

### **フランシスコ・ロペラ（コントラバス）**

日本に人々と共に暮らしながら、日本の文化、そして人々に強く惹かれました。ベネズエラとは真逆だけれど、深く、豊かで、ホスピタリティやバイタリティ、疲れを見せずに動きつづけながら、健康的に頑張る人々に感動しました。日本語学習も、友人に助けられて、たくさん勉強することができました。いつかまた、日本に帰ってきたいと思います。

### **マリア・ガブリエラ・ヌニェス（フルート）**

船の上では、ヒロシマ・ナガサキの証言を聞いたこと、紛争予防のワークショップを受けたこと、太鼓や着物、習字などの日本文化を学んだことが心に強く残っています。関わってくれたすべての方々に、私たちが受けた未来への使命、音楽家としてだけでなく、よい人間として、平和への貢献に励んでいこうと思います。

### **カロリーナ・プラド（オーボエ）**

日本滞在の時間、船の時間、それぞれが早く過ぎていきました。私は山縣典子さんの家族となって、毎日散歩したり、観光したり、美味しいものを食べたり、私たちの音楽を楽しんでもらったりしました。文化・習慣の違う人々と出会っていく中で、違う自分が確立されていくのが分かりました。ほかの人々を、励ますこともできるようになりました。オーボエ奏者として、また音楽家として、自分の国、そして世界に貢献していきたいと思います。

### **ヘスス・アントン（クラリネット）**

日本での家族と過ごした日々、船でソーラン節を踊ったり、和太鼓を学んだりした日々を忘れることはできません。そしてまた、私たちの音楽を通して、みなさんが少しでもベネズエラの美しい部分を知ってもらえていたら嬉しいです。

### **オリベル・ロペス（ファゴット）**

日本の一番すばらしいもの、そこに暮らす人々をいつまでも忘れることはできません。いつまでも、いつまでも、心にとどめておきます。ありがとう。

### ガブリエル・マレロ（ホルン）

私にとって一番インパクトが大きかったのは、日本の家、そして船で目にした日本の文化でした。時間を守ること、グループで取り組むこと、困っている人を助けるということ、その一つ一つを日々の生活で教わりました。いつか戻ってきます、そしてより勉強したいと思っています。

### ジヨルマン・ロドリゲス（ホルン）

チャリティー・レッスンでは、船の参加者から、私たちに音楽を教わりたい人が集まりました。辛抱強く日々練習し、熱心に私のレッスンを受け、最後の「みんなのコンサート」では見事に演奏してみせてくれました。言葉の通じない人々と、こうして一つの目標を成し遂げられたのは、私にとって大きな経験でした。



みんなのコンサートの一場面



ベネズエラの紹介を行う指揮者・ダニエル



おりづるプロジェクト・被爆者のみなさんと一緒に